

靈感

キサラギ職員

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

500文字くらいの（以下略）

第1話

目次

1

第1話

俺には靈感があるという男がいた。彼はごく普通の一般人ではあったが靈感があるといつて憚らなかつた。彼は自分の靈感を試すためによくないことが起こつたという村へと出向いて幽霊を見ようと思つた。

彼は用意周到な性格でありとにかく準備がよかつた。テント、飯盒、衣服、懐中電灯、電池、その他必要なツール類を全て整えてから村に出向いたのだ。彼は朽ち果てた建物から少し離れたところにテントを張ると村中を撮影して回つた。

怪しいところはシラミつぶしだ！ 井戸、墓、廃屋、切り株、神社の廃墟、川……ありとあらゆる霊的に臭いスポットを歩いて回つた。

だが、悲しいかな、数日間滞在しても幽霊とは遭遇できなかつたため、肩を落として帰宅した。

彼が帰つた後で幽霊たちはほつと胸を撫で下ろしていた。

「ああいうおのぼりさんがおいでなさるから恐ろしい」

「そうよ。除霊師でも呼ばれたら村中片っ端から昇天させられちまう」

「写真には写らなかつただろうな？」

「あたぼうよ」

写真に撮られると大挙として人が押し掛ける現代。幽霊にも自己防衛は必要である。